

八重垣神社

Ⅱ 前沢区生母字伏畔 Ⅱ

旧母体村鎮守の八重垣神社には、天神様こと菅原道真が祭られる。母体の地名は、この道真に関わる伝説が由来と言われている。

901年に道真が九州の大宰府に流されたとき、道真の妻は3人の子どもとともに、この地を治める地方役人を頼ってやって来た。母子は離れ離れに暮らし、道真が死んで3年後の906年にその妻も亡くなった。母の体がこの地に弔われたことから、それ以来ここを「母体」というのだという。今でも、母体の一部であった一関市東山町田河津にはその墓が残る。

「八重垣」という言葉は、須佐之男命が妻を思つて詠んだ「八雲立つ 出雲八重垣 妻籠みに 八重垣作る その八重垣を」という歌を連想させる。社名の「八重垣」から、不遇のうちに没した道真の妻を思ふ地域の人の心が感じられるようだ。



1神社の創建は906年ごろまたは947年といわれ定かでない。大正7年に八幡神が合祀され、現在は2柱を祭る
2参道の石段。緩い斜面を挟みつつ、140段ほどで山頂の神社へ至る。参道石段新設記念の碑には、昭和38年11月20日竣工と刻まれる
3山頂の池は、いかなる干天にも水が枯れないという

広告



※この広報紙は再生紙と植物油を使用しています。
 ※この広報紙は奥州市のホームページでもご覧いただけます。【本紙1部の印刷費用は約38円です。】

